

平成 27年度香美市教育委員会
施策に関する点検・評価報告書

平成 29年 3月
香美市教育委員会

点検及び評価の概要

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正に於いて、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。

この改正は、効果的な教育行政を推進し、住民の皆様への説明責任を果たしていくことを目的としたものであり、具体的には、教育委員会で、自ら設定した教育に関する基本的な方針や地域の課題等に応じて、教育行政がどのように執行されているのかを点検・評価することになります。

香美市教育委員会は、平成27年度の教育行政方針を基に、「心豊かな人づくり、人権尊重を核としたまちづくり」を推進しています。市民一人一人が、国際化、情報化、高齢化等の社会の変化に対応し得る能力を身につけ、心身ともに健康で調和のとれた人間形成を自ら成し遂げ、自己実現が図れるように、生涯学習の推進体制や環境を整備し、「学びをたのしむ人々が育つ風土づくり」に努めてきました。

このたび、平成27年度の取り組みに対し、自己点検・評価を行うとともに、評価内容の客観性を確保するため、学識経験を有する点検・評価委員から、今後の教育行政の推進についての意見・提言を受けました。これらを「平成27年度香美市教育委員会施策に関する点検・評価報告書」として公表いたします。

教育委員会の点検・評価制度の実施により、教育委員会自らがその成果や課題を確認することで、今後の施策改善に反映させるとともに、目指すべき方向についてより具体的なそして効果的な教育行政の推進を図ることとします。

点検及び評価の構成

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、市教育委員会では、効果的な教育行政を推進し、市民への説明責任を果たすことができるよう市教育委員会が行う事務の管理・執行状況について点検・評価を実施し、その結果をとりまとめました。

(評価の判断基準)

評 価	判 断 基 準
5	想定を大きく上回る成果が得られた。
4	想定以上に成果が得られた。
3	想定どおりの成果が得られた。
2	成果が得られたが、改善の必要がある。
1	成果が得られず、見直しの必要がある。

外部からいただいたご意見

点検・評価の客観性を確保するために、学識経験を有する外部の方を点検・評価委員として、ご意見、ご助言をいただきます。

氏 名	所 属
福石 賢一	高知工科大学 教職課程准教授

結果の公表

- (1)点検・評価の結果については、議会へ提出します。
- (2)市民には、ホームページにより公開します。

平成27年度 外部評価

香美市における教育委員会の諸活動に対する評価報告は、地教行法改正に伴ってそれが開始された平成20年度以来、今回で8回目となる。今年度より外部評価者が交代し、評価者にとっては今回が初めての評価となった。そのような事情もあり、まずは今年度も前年度までの評価方法を踏襲し、教育委員会から頂戴した各種資料の検証、並びに学校及び社会教育施設の責任者への聞き取り調査により評価させて頂くこととした。資料の作成や聞き取り調査への対応には多くの時間と労力を割いていただいたこととご推察申し上げる。この場を借りて関係各位に謝意を申し上げたい。

さて、まず教育委員会の活動全般について述べる。この点についてはこれまでと同様に、教育委員会は教育長のリーダーシップの下、取り組むべき課題について滞りなく業務にあたり、全体として着実な歩みを続け、教育現場からも信頼を得ていると言ってよいと思われる。教育委員会の個々の施策・事業に関しては、委員会は市の教育振興基本計画に基づき、その基本理念である「郷土を愛し、未来を拓く人づくり」の下、「1. 主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます」、「2. 市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます」、「3. 夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します」の3つの視点から事業を計画、実施している。具体的には、視点1については学力向上、保幼小連携、いじめ・不登校対策、教員・管理職研修等に関する26事業、視点2については地域での体験活動、食育、子育て支援、地域連携等に関する21事業、視点3についてはICT機器整備、環境教育、高知工科大との連携、生涯学習等に関する15事業の計62の事業が実施されている。これら62事業については、まず教育委員会が内部評価を行いそれぞれに1～5の評価点を付している。各評価点の分布は5点が3事業、4点が35事業、3点が19事業、2点が5事業、1点が0事業となっており、62事業中54事業(87%)が評価点3ないし4点で、平均点は3.6点である。ここから教育委員会の事業は総体として一定の成果を上げているものと判断され、聞き取り調査の結果と照らし合わせてみてもそのように判断して差し支えないと考える。

しかしながら各観点・事業を個々に見ていくと、点数としての評価とは別に、少々心配に思われる点も見受けられた。まず子どもたちの現状に関するデータについて言えば、中学生の学力に依然課題があること、中学校における暴力行為件数が前年比2割増加したこと、小学校において「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する」児童の割合が大幅に減ったこと、子育て支援サポート体験に参加した高校生が半減したことなどは、気になる点であった。その一方で22時までに就寝する小学5年生が46.9%から63.4%へ16.5ポイント増加し、23時までに就寝する中学2年生が37.3%から62.5%へ25.2ポイント増加するなど、生活指導の面では顕著な成果が見られた。

子どもたちへの指導体制の面では、学校関係者評価において全ての学校で5項目中3項目以上のA評価を得ることが目標とされたが、その目標を達成した学校は6割に止まった。また「子どもの育ちの指標」を明らかにして発達段階に応じた適切な教育の推進を目指すことが目標として掲げられていたが、聞き取り調査においては、せっかく作成された「育ちの指

標」が現場では十分に生かされていないように感じられた。これらのことはやや残念なことであったが、しかしながら全ての中学校校区で小学校との連携協議会が実施されたこと、学校支援地域本部事業の活動人数がのべ 3409 人と当初目標を大きく超える人数に達したことなどに示されるように、学校間や学校と地域との連携・協力の面では確実な進展が見られた。生涯学習機関に関しても、公民館や図書館などで、内部評価としては控え目ながら、報告された活動内容から「到達目標」に向かって地道な努力が続けられていることが窺えた。

このように本市においては、教育振興基本計画の方針に沿って多様な領域で事業が行われ、そしてそれらの領域の中には顕著な成果が現れたものとそうでないものがあった。言わずもがなではあるが、物事には努力の結果がすぐに現れやすいものとそうでないものがある。それゆえ、成果が出ていないところが必ずしも努力が足りないところではない。必要なことは、成果の大小に一喜一憂することではなく、事業と成果の関係を科学的な目で考察し、できるだけ「正しい」努力が行われるよう不断の検証を積み重ねていくことである。この観点からした時に今回最も気になったのは各事業の評価を一覧形式で総括するための評価表の様式である。現在の評価表は「現状」、「到達目標」、「具体的な取り組み」、「内部評価」、「外部評価」の五つの項目から構成されている。それらの項目間の本来的な関係は「現状」についての課題認識から出発し、そこからその課題が克服された理想的な状態としての「到達目標」が定められ、その「到達目標」に至るための手段として「具体的な取り組み」が決定され、その取り組みを実施した結果「到達目標」がどの程度達成されたかが「評価」され、その際、当初の目標が達成されなかった場合にはその原因について考察がなされ、それが翌年の「現状」や「取り組み」に反映されていく、というものであろう。しかしながら、現在の評価表の記述内容においてはこうしたプロセスがうまく表現されていないところがあるように思われる。そこで次年度については、こうしたPDCAサイクルの論理構造が明確になるよう評価表の記入欄の構成を以下のようにすることを提案したい：①「現状（昨年度の取り組みの状況、「到達目標」の現時点での達成状況、認識している課題）」、②「到達目標（何年度までにどういう状態にしたいのか、できるだけ数値で表現する）」、③「行動目標（到達目標の達成に向けて今年度どのような取り組みを行うのか）」、④「行動実績（各取り組みはどこまでどのように実施されたのか、できるだけ数値等で示す）」、⑤「到達目標の達成状況（年度末における達成状況）」、⑥「内部評価（点数）」、⑦「内部評価の根拠（何をどのように評価してその点数をつけたのか）」、⑧「外部評価（点数）」、⑨「外部評価の根拠（何をどのように評価してその点数をつけたのか）」。このような構成にすることにより各記入欄における記述内容について事業間で統一感をもたせ、各領域における改革の方向性や進み具合をより「見える化」できるものとする。

最後に昨年度の外部評価において指摘されていた年齢と経験年数を考慮した教職員配置の問題について言及しておきたい。教育委員会から提示いただいたデータ並びに聞き取り調査によって得られた情報から判断すると、この課題に対しては教育委員会内で未だ改善に向けた具体的なアクションが起こされていないように思われる。この課題は、基本的な権限の所在が県教委に存する人事に関することゆえ、この課題に対して市教委としてすぐに動き出すことができないことは一定理解できる。しかしながら敢えて言わせていただければ、外

部評価者により指摘され、市教委としてそれが課題であると認識したことについては、その事実を何らかの形で世に示す必要があるのではないだろうか。その方法として最も分かり易いのは、その課題を教育委員会の施策・事業リストに加えてしまうことである。改革を進めるためにはP（計画）やD（行動）から始まるPDCAサイクルだけでなく、C（評価、課題認識）から始まるPDCAサイクルも意識する必要があるだろう。また市民にとっても、教育振興基本計画と同様に（ある意味ではそれ以上に）、その下の事業・取り組みといったミクロ・レベルにおける教育委員会の課題認識も重要な関心事であると思われる。

<視点>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます

(1) きめ細やかな教育・保育の推進と体制整備

取組・事業名	内部評価	外部評価
香美市0歳から15歳までの「子どもの育ちの指標」を明らかにし、発達段階に応じた適切な教育の推進	3	2
保小連携、小小連携、小中連携教育	4	4
アプローチカリキュラム作成・実施	3	3
スタートカリキュラム実施(小・中学校)	4	4
インクルーシブ教育の推進 ①支援体制の確立	4	4
インクルーシブ教育の推進 ②高知県立山田養護学校との連携	4	4
インクルーシブ教育の推進 ③関係各機関と連携した研修と支援	4	4
インクルーシブ教育の推進 ④不登校対策	4	4
インクルーシブ教育の推進 ⑤いじめ対策・問題行動対策	4	3

(2) 活力ある保育所・学校づくりの推進

取組・事業名	内部評価	外部評価
学校組織として教育活動を推進	4	4
教職員に対する研修の充実	4	4
管理職研修の充実	3	4
中堅教員研修の充実	3	3
小中連携教育の推進	3	4
教育研究所による 学校支援の充実	4	4
保育職員の研修	3	3
香美市子ども・子育て支援事業計画の実施	3	3

(3) たくましく生きる人間力を培う教育の推進

取組・事業名	内部評価	外部評価
学力向上プロジェクト事業	2	3
中学校学力向上推進	2	3
香美市チャレンジ塾	2	2
道徳教育の推進	4	3
人権教育の推進	3	3
図書館教育の推進	4	3
体力の向上	4	4
健康な生活の推進	4	4
キャリア教育の推進	4	4

<視点>

市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます

(1) 香美市のたからを活かしたふるさと教育の推進

取組・事業名	内部評価	外部評価
香美市社会科副読本活用推進 (支援員配置) (社会教育施設の活用)	4	4
香美市ふるさとプログラムの実施	5	4
・香美市の森の学習 (山の学習)	4	4
・香美市小中学校 子ども会議 子ども議会 (毎年実施)	5	5
食育の推進 香美市食育推進計画	4	4
香美市防災教育の推進	5	4

(2) 子育て支援と親支援の推進

取組・事業名	内部評価	外部評価
香美市教育の日 地域の人々を学校へ	3	3
子育て専門家支援 家庭支援推進事業	3	3
※子育てひろば	4	4
※子育てに関する 相談・援助	4	4
※地域の子育て関連情報提供	3	3
※子育てに関する講習会	4	4
※子育てサークル支援	4	4
※一時保育	3	4
※マタニティママのつどい	4	4
※子育てサポート体験	2	3

(3) 市民協働で地域の教育力を高める取組の推進

取組・事業名	内部評価	外部評価
学校支援地域本部事業	4	4
放課後子ども教室推進事業	4	4
コミュニティースクール事業	4	4
放課後児童クラブの充実	4	3
学校評価の推進	4	4

<視点>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

(1) 次世代を見通した教育の環境整備と実践

取組・事業名	内部評価	外部評価
ICT機器整備	4	4
情報モラル教育の推進	4	3
情報リテラシー教育の推進	3	3
環境教育 エネルギー教育の推進 (香美市ふるさと教育と関連させる)	4	4
学校図書館システム化の推進	2	4
外国語(英語)教育の推進	5	4

(2) 高知工科大学との連携

取組・事業名	内部評価	外部評価
高知工科大学について知る学習の推進 オープンキャンパス事業	4	4
高知工科大学留学生との交流 インターナショナルデイ開催	4	4
高知工科大学学生企画による小中学校学習支援活動	4	4
高知工科大学の施設や「知」を活用した連携活動の推進 教職員情報リテラシー研修の推進 例:情報教育担当教員との連携	3	2

(3) 生涯を通じた豊かな学びと文化・芸術、スポーツ活動の充実

取組・事業名	内部評価	外部評価
芸術・文化活動の拠点となる市内社会教育施設の活用促進	3	4
民俗芸能や伝統行事を後世に残す取組の推進	3	3
生涯スポーツの推進	3	3
公民館活動の活性化	3	3
図書館活動の充実	3	4

<視点>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます
 (1) 主要な領域や新たな教育・保育の推進と体制整備

取組・事業名	事業の概要
1 香美市0歳から15歳までの「子どもの育ちの指標」を明らかにし、発達段階に応じた適切な教育の推進	めざす子ども像の明確化と目標の共有 ・「子どもの育ちの指標」の作成 ・「子どもの育ちの指標」による保育・教育の実施 ・保・小・中・高合同の研修会の実施
2 保小連携、小中連携、小中連携教育	校種間連携、交流教育の推進 ・連携、交流教育の香美市の計画作成 ・目的を明確にした連携、交流学習の推進 ・保育所・小学校・中学校の連携推進
3 アプローチカリキュラム作成・実施	児童生徒の円滑な教育の接続 ・保育、小学校でのアプローチカリキュラムの作成と、実施 ・保育所から小学校への接続を円滑にするために、園児と小学生、職員間等で交流をもち、ギャップを埋めるための就学前のカリキュラムを作成する
4 スタートカリキュラム実施(小・中学校)	児童生徒の円滑な教育の接続 ・小学校、中学校でのスタートカリキュラムの作成と、実施

平成27年度 具体的な取り組み		内部評価	外部評価
現状	到達目標		
子どもの育ちの指標を周知するため、4月に教育機関および保護者に配布する。	育ちの指標を意識した保育・教育が行われる。	3	2
支援を必要とする子どもの詳細な引継ぎが不十分	必要な情報が切れ目なく共有され、子どもの育ち等が後退することなく促進される	4	4
保小接続カリキュラムの安定なく保小接続が実施されているため、子どもの育ちがスムーズに継続されない	保小間で共通したカリキュラムが実施される	3	3
香美小学校、舟入小学校でのスタートカリキュラムの作成	香美小学校、舟入小学校でのスタートカリキュラムの見直し、修正 ・スタートカリキュラム公開授業の実施	4	4

＜視点＞

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます

(1) きめ細やかな教育・保育の推進と体制整備

取組・事業名	事業の概要
5 インクルーシブ教育の推進 ①支援体制の確立	園内・校内支援体制の確立と推進 ・全ての子どもが「わかる・できる」授業の実施 ・高知県版引継シートを活用
6 インクルーシブ教育の推進 ②高知県立山田養護学校との連携	県立山田養護学校との連携 教育の確立と推進
7 インクルーシブ教育の推進 ③関係各機関と連携した研修と支援	・香美市特別支援教育研修の実施 ・児童虐待に関する研修の充実 ・専門家による教職員支援 ・家庭支援員による家庭教育支援
8 インクルーシブ教育の推進 ④不登校対策	子どもの学びを保証する取組 ・相談体制の充実 ・SSWの配置による児童生徒、家庭支援 ・香美市教育支援センターの充実 ・SCの配置による児童生徒、家庭支援
9 インクルーシブ教育の推進 ⑤いじめ対策・問題行動対策	子ども、保護者の心に寄り添った取組 ・教育相談の充実 ・SC、SSWの配置によるきめ細かく継続的な児童生徒支援、およびその家庭教育支援 ・香美市教育支援センターの充実 ・Q-U検査活用による児童生徒の心の把握

平成27年度		内部的評価		外部評価	
現状	到達目標	内部的評価	外部評価	内部的評価	外部評価
特別な教育的支援が必要な児童生徒の増加に伴い、よりきめ細やかな手立てと系統的な支援が益々必要	①個別の指導計画作成100% ②引き継ぎシートを活用して進捗状況を増やす	4	4	4	4
活用できる業種について周知が未だ不十分	山田養護学校の研修に参加する	4	4	4	4
アセスメント研修は定着してきた。研修後の進捗管理を行い、教職員のアセスメントスキル向上をめざす	①研修への参加者の増加 ②専門家を招いての各校の研修の実施50%	4	4	4	4
①コミュニケーション力不足 ②学力不振 この2つが不登校対応のキーポイント	小中学校とも長期欠席の数が前年度を下回る	4	4	4	4
小学校のいじめを認知するアンテナが高くなった。 予防的視野での取り組みと初期対応・連携を重視した取組が増えた	いじめ解決100% 暴力行為の件数が前年度を下回る	4	4	4	3

＜視点＞

- 主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます
 (2) 活力ある保母所・学校づくりの推進

		平成27年度		外部評価			
取組・事業名	事業の概要	現状	到達目標	内部的取り組み	内部評価		
1	組織として教育活動を推進	組織的に取り組む学校経営の推進 ・学力向上を核とした学校経営の実施 ・学力向上に向け、確実なPDCAサイクル化した教育実践 ・先進地の学校経営について学ぶ視察研修 ・高知工科大学・県立山田高等学校・県立山田養護学校と連携して進める学校経営 ・コラボレーション会議との連携による事業 ・学校関係者評価の実施	・学校経営計画を作成し取り組んでいるが、組織的な活動につなげていない学校がある ・学校関係者評価でB評価が学校50項目中8項目 ・コラボ会議により、高校・大学との連携が準備段階	・学校関係者評価で評価を5項目中3項目以上 ・コラボ会議発表による事業の基盤固めを行う	○学校経営計画を全教員が理解して取り組む学校づくりの支援(教育事務所の指導) ○学校関係者評価委員との連絡や広報の支援 ○コラボレーション会議と事業の実施 ・子ども会議(祭り)・フレゼンフェア ・子どもの声も真期調査・YOSAKOIサマースクール ・理科クラブ 等	4	4
2	教職員に対する研修の充実	全体研修3回で、香美市の教育の方向性や課題を共有している。また、香美市教育研究会や各種研修会を通して、研修の充実を図っている。	8月の2回の研修会後のアンケートで、1研修会が参考となったことが80%を超える。	香美市教職員総会・研究会(4月) 香美市教職員研修会(8月) 香美市保小中合同研修会(8月) 香美市教育研究会(年5回) キャリア教育研究会(会場横野中)	4	4	
3	管理職研修の充実	校長会 教頭会 管理職(校長、教頭合同)研修	校長や教頭(育成型)の実施 校長、教頭合同研修の実施 保育園長を含めた合同研修の実施	○月1回の校長会、教頭会の実施 ○教頭会は、テーマによる研修 ○校長・教頭合同会、校長・園長合同会の実施	3	4	
4	中堅教員研修の充実	研究主任等学校経営に関わる教員の育成 ミッドリリーダー育成研修の実施 人間関係づくり、児童生徒理解研修の実施 ・特別支援教育研修の実施	研究主任には、学力向上に関して、キャリア教育担当には、キャリア教育に関して、学校経営参画の観点で実施している。	研究主任会の充実(年3回) キャリア教育担当者の会の実施(年6回) 連携教育推進協議会の実施(年3回)	3	3	
5	小中連携教育の推進	子どもの育ちについて中学校区での共有の場の設定 ①授業の進め方 ②家庭学習のシステム構築 ③基本的な生活習慣の確立における連携	それぞれの中学校区で、重点課題について、小中学校で協働できる。	中学校区連携協議会の実施 育ちの一覧表の利用 公開授業(研究発表会)	3	4	

<視点>

主体的に学び、社会を生き抜く力を身につけた人材を育てます

(2) 学力ある保育所・学校づくりの推進

取組・事業名	事業の概要
6 教育研究所による 学校支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 研究活動の推進 キャリア教育 外国語活動 特別支援教育 学校支援推進 教職員育成 学力及び意欲・実態把握に関する調査及び分析 キャリア教育 特別支援教育
7 保育職員の研修	<ul style="list-style-type: none"> 総合研修 部会ごとの研修 ティーチャーズ・トレーニング
8 香南市子ども子育て支援事業計画の実施	香南市における教育・保育及び子ども子育て支援事業計画の充実のほか、母子保健事業、ひとり親への支援施策の実施等、子どもを取り巻く各種支援の包括的な整備に向けた計画を定める。

平成27年度 真実的な取り組み		内部評価	外部評価
現状	到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> 各研究員が香南市の課題(テーマ)に沿った研究(学力、キャリア教育)が行われた 市の課題に沿った研究を行い、学校支援を行うことができる。 研究の成果は、研究所発表会で報告、本年度は多くの方は参加しやすいように土曜日に実施。 研究員は学校を訪問するなどし学校教員支援を行うことができている 	<ul style="list-style-type: none"> 市の課題に沿った研究を行い、学校支援を行うことができる。 	4	4
研修回数等は確保されているが、マンネリ化した内容で実施している研修がある	研修内容のレベルアップ	3	3
現場努力だけでは実施できない計画への取組みが課題	計画に沿った事業の実施	3	3

＜視点＞
主体的に学び、社会性を基盤とした人材を育てます
(3) たくましく生きる人間力を培う教育の推進

		平成27年度		外部評価		
取組・事業名	事業の概要	現状	到達目標	具体的な取組み	内部評価	
1 学力向上プロジェクト事業	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上プロジェクト 大学教員、東部教育事務所等による研修 標準学力調査による到達度把握 学力向上支援員の配置 学力先進地視察実施 若年教員を養成するシステム構築と実施 研究主任会の充実 高知工科大学生、山田高校生による学習ボランティア活動の推進 	<p>平成26年度「全国学力・学習状況調査」で、全国平均より小学校圏-1P、算数-0.5P、中学校圏-1.3P、教員-9.5P</p> <p>平成26年度高知県学力定着状況調査で、小学校は高知県平均より0.9～+3.4P、中学校は-3.7～+1.6P</p>	<p>平成27年度「全国学力・学習状況調査」で、小学校全国平均値以上、中学校全国平均値と同等になる。</p> <p>平成27年度高知県学力定着状況調査で、小学校とも高知県平均値以上となる。</p> <p>「国語、算数、数学」の授業がよくなる」という意識がH26年度以上となる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 香南市アドバイザー派遣事業(大学教員の招聘) 東部教育事務所等指導主事の招聘 研修主任会の充実 	2	3
2 中学校学力向上推進	<ul style="list-style-type: none"> 中学校学力向上推進 中学校教員の授業改善、研究授業実施 学力向上アドバイザー派遣(遠藤教員による若年教員指導と支援) 数学、理科学力向上補助員の配置 高知県教育委員会作成シート活用促進 中学校5教科部会の活性化 山田高等学校との数学、科学クラブ連携 	<p>平成26年度高知県学力定着状況調査の高知県平均正答率との差(中学2年) 国語 -3.9、社会 -0.8、数学 -3.1、理科 -3.5、英語 -3.7</p>	<p>平成27年度高知県学力定着状況調査で、高知県平均値以上となる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 香南市アドバイザー派遣事業(大学教員の招聘) 東部教育事務所等指導主事の招聘 学力向上教科アドバイザー配置(鶴野中) 学力向上支援員の配置(鶴野中) 中学校5教科部会の実施 	2	3
3 香南市チャレンジ塾	<ul style="list-style-type: none"> 各校区での子ども学び場の整備 放課後子どもプログラムの実施 	<p>H26年度は、鶴野中で放課後学習教室を実施。他の学校では、教員やボランティアによる加力学習を実施。</p>	<p>平成27年度高知県学力定着状況調査で、小学校とも高知県平均値以上となる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 放課後子ども教室(舟入小、片地小) 放課後学習教室(鶴野中) 放課後等学習支援事業(放課後および長期休業中)をほとんどの学校で実施。 	2	2
4 道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 香南市道徳教育連絡協議会による道徳教育の推進 心のノート、ふるさと志、高知の道徳の活用促進 道徳の授業の質、教員の指導力の向上 家庭、地域社会を巻き込んでの取組の実施 	<p>平成27年度「全国学力学習状況調査」で、問紙で「難しいことで挑戦する」「学校の決まりを守っている」「人の気持ちがいい人間になりたい」という項目で平成26年度より高くなる。</p>	<p>平成27年度高知県学力学習状況調査で、問紙で「難しいことで挑戦する」「学校の決まりを守っている」「人の気持ちがいい人間になりたい」という項目で平成26年度より高くなる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 香南市道徳教育推進地区協議会(年間5回)用「高知の道徳」「ふるさと志」「私たちの道徳」の活用 香南市教育研究会道徳部会(小中学校研究授業)道徳参観日の実施(全小中学校) 平成27年度全国学力学習状況調査質問紙結果を毎年比較(広報香美で発信) 平成27年度キャリアアンケート結果を毎年比較(香南市道徳教育推進地区協議会・高知県道徳教育ワーキンググループで報告) 	4	3

＜視点＞
主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます
③ たくましく生きる人間力を培う教育の推進

		平成27年度		具体的な取り組み		内部評価	外部評価
取組・事業名	事業の概要	現状	到達目標	到達目標	具体的な取り組み	内部評価	外部評価
5 人権教育の推進	いじめ防止サミットへの積極的な参加支援 ・人権参観日の実施支援 ・学校における家庭、教職員の研修実施支援	児童生徒の自尊心の低い傾向がある 小学校：全国比（10.4P） 中学校：全国比（9.2P）	児童生徒の自尊心を小学校2P、中学校1.5P上げる	児童生徒の自尊心を小学校2P、中学校1.5P上げる	・「ネット問題」を子どもと大人で考える県民フォーラムへの参加呼びかけ ・人権参観日の講演会支援	3	3
6 図書館教育の推進	学校や家庭、地域における読書活動の推進 ・香美市子ども読書活動推進計画の推進 ・学校図書館の整備 ・図書支援員の配置 ・図書支援員の資質向上研修の実施	○図書支援員の配置が全小学校に配置されている。 ○教科書に取り上げられている図書が整備されている。 ○子ども同書の貸借所有者が20%を超えている。	○図書支援員が全小学校に配置されている。 ○教科書に取り上げられている図書が整備されている。 ○子ども同書の貸借所有者が20%を超えている。	○図書支援員の配置 ○図書支援員の研修(教員と合同の研修も実施) ○子ども同書講習の実施		4	3
7 体力の向上	健康的な生活を送るための運動習慣を確立する。 ・運動の習慣化に対する支援	全国と比較すると体力伸び率日本一であるがまだ低い状況	体力の値が男女とも平成26年度を上回る 健康な生活を送るための運動習慣がつかっている(60%以上)	新・高知のこども体力アップアクションプランの活用 運動部活動サポート事業の活用 香美市教育研究会体育部会で高知県教育委員会主催の体育・保健体育授業づくり講習会に参加 体力・運動能力テストを香美市全児童生徒が実施		4	4
8 健康な生活の推進	児童生徒の基本的な生活習慣の確立を図る取組 ・基本的な生活習慣の確立推進 ・体力と健康、食育を関連させた取組の推進	複身傾向出現 系、中3を除いて全国・県と同様または低い。小2・小3は0%。中3は全国・県より高い、肥満傾向児の出現率は、高学年ほど全国・県より高い。	早寝・早起き、朝ごはん、朝うんち空書(香美市食育推進計画の目標数値を達成する)	小学生「生活リズムチェックカード」の活用 健康教育教材「よりよい生活習慣のために」を全小学校で活用 低学年用家庭で学ぶリーフレットの活用 体育・健康アトハイサー事業の活用		4	4
9 キャリア教育の推進	キャリア教育の推進 ・キャリアチャレンジデイ、キッズチャレンジデイの実施 ・キャリアの講師を招聘しての講演会 ・教職員、家庭、地域に対する研修会の実施	・土曜授業の実施 ・キャリア教育地域の推進会議の実施 ・15年間の「育ちの指針」を作成、教職員に配布	・学校独自の特色ある土曜授業の実施 ・キャリア教育公開授業の実施	・土曜授業の実施 ・キャリア教育公開授業実施とキャリア教育講演会の実施 ・キャリア教育地域推進会議の実施		4	4

＜報告＞
市民が参加し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます
① 香美市のたからを大切にすることと教育の推進

取組・事業名		事業の概要	現状	到達目標	具体的な取り組み	内部評価・外部評価
1	香美市社会科副読本活用推進 (支援員配属) (社会教育施設の活用)	香美市社会科副読本の活用 ・ふるさとプログラム支援員配置 ・テスト、指導書、電子版作成	香美市社会科副読本のテストと指導書の作成	香美市社会科副読本の改訂版作成	・香美市社会科副読本の改訂版作成	4
2	香美市ふるさとプログラムの実施	香美市ふるさとプログラム ・香美市ふるさとプログラムの作成と実施 ・香美市の社会教育資源の積極的活用	・香美市ふるさとプログラムの実施	・香美市ふるさとプログラムの充実	・地域学習の中に、香美市ふるさとプログラムを取り入れ実施	4
3	香美市の森の学習 (山の学習)	香美市山の学習 ・森林、物部川学習の推進 ・「山の学習事業」の積極的利用	「山の学習」事業、実施9校	「山の学習」事業、香美市内全小中学校実施	「山の学習」事業、香美市内全小中学校実施	4
4	香美市小中学校子ども会議 (毎年実施)	○香美市子ども会議の開催 ○香美市子ども会議の開催	香美市子ども会議実施予定	香美市子ども会議実施	・香美市子ども会議実施(2回) ・香美市子ども会議からの活動(あいたつ運動・清掃活動実施)(香美市子ども祭り実施)(香美市リーフレット作成)(香美市の歌作成)	5
5	教育の推進 香美市教育推進計画	健康と食を関連させた教育推進 ・健康と食を関連付けた教育実践の取組	平成26年度大宮小学校の卒業式を皮切りに香美市全体で健康啓発推進校に香北中・横目小を加えて教育推進	香美市教育推進計画の達成	香美市学校食育推進事業実施 実行委員会(3回)推進校:大宮小・香北中(健康の取組中心)横目小(お弁当づくり)の取組中心 香美市食育ノートを生小中学校で活用 香美市食育資料集(中学校版)作成 香美市食育行内検討委員会(3回) 卒業統飾の活用	4
6	香美市防災教育の推進	防災教育の推進 ①防災・减灾の知識の確立 ②危機回避できる力の受領 ③避難行動 ④災害時に役立つ情報と防災活動に積極的に参加	年3回以上の避難訓練と、各学年5時間以上の防災学習を全学校が実施できている。	地球を巻きこんだ防災学習や避難訓練の実施。	○地球を巻きこんだ防災学習や避難訓練の実施。	4

＜視点＞
市民が協働し、ともに考え合い、高め合う地域社会を築きます
(2) 子育て支援と親支援の推進

		平成27年度		外部評価		
取組・事業名	事業の概要	到達目標	具体的取り組み	内部評価	外部評価	
1	香美市教育の日 地域のみなさまを学校へ	香美市教育の日の推進 「教育の日」への講師派遣支援 「教育の日」の取組等、情報発信支援 「教育の日」の体験活動支援	「教育の日」や、参観日、学校行事等に、保護者や地域の方が参加する。	○「教育の日」の市内への広報 ○地域の片が参加できる学校行事等、市内に広報する。	3	3
2	子育て専門家支援 家庭支援推進事業		支援を必要とする人が支援を必要とするとき、十分な対応ができる体制をつくる	○特別支援保育コーディネーターの配置(1名) →2名に増員予定だったが要任者が見つからず、人員的には現状維持となる ○家庭支援員の配置(2名) ○クラス担任に持つていないものの選任任務があるため、家庭支援に専念できる時間が限られる	3	3
3	※子育てひろば	子育て親子の交流の場の提供 と交流の促進を目的に子育て支援センターで子育てひろばを開催している。	・対象者のニーズにあった事業を検討している必要がある。 ・子育てセンターひろばの子育てひろばを平日毎日開催している。 ・子育てセンターひろばを平日毎日開催している。	○子育てセンターなかよし(なかよしひろば)月～金 平日毎日開催にした 子育てひろば子ども延べ人数 H27年度2792人(H27.12末) H26年度3,768人 ○乳児健診でちらしを配布 ○新規利用者には子育てひろば登録票にてアンケートを実施(随時) ○子育てひろばを利用している保護者を対象にニーズ把握のため一定期間アンケートを実施(H28.2予定)	4	4
4	※子育てに関する相談・援助	子育てひろばでの相談や電話・来所相談で随時相談を受け付けている。また、健康介護支援課と協働で子育て支援センターで月1回育児相談を実施している。	子育てセンターを利用していない子育て家庭への支援を検討する。	○保育士、栄養士、保健師等専門スタッフによるひろば・電話・来所等での相談(随時) ○子育てセンターなかよし・ひろばでの育児相談(1/月) H27年度270人(H27.1末) H26年度371人 ○園庭開放での育児相談(大畑保育園1/2月) ○産後早期の親子を対象とした産後サポート事業「ママのサポートルーム」を試行実施(H28.1～1/月) ○子育てセンターを利用していない家庭に対して保育士による訪問支援を実施(H28.1～)	4	4
5	※地域の子育て関係情報提供	毎月子育て講座を開催し子育てひろばのイベント情報や子育てに関する情報を提供している。また、さまざまな機会を活用し地域の子育て関係情報を提供・広報活動している。	子育て家庭への情報提供を継続する。	○子育ておひさま通信1を発行・配布・ホームページへの掲載(1/月) ○楽しい子育て応援します1の配布・ホームページへの掲載(随時) ○窓口への設置、乳幼児健診、保健師訪問等さまざまな機会を活用して配布している。 ○子育てガイドを1回更新し、窓口の設置や関係機関等から配布している。また、転入児の家庭には健康介護支援課で配布している。 ○子育てサポートガイドを発行し、窓口への設置、子育てサポートセンター等で配布している。	3	3

＜視点＞
市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます
(2) 子育て支援と親支援の推進

取組・事業名	事業の概要	現状	到達目標	平成27年度 具体的な取り組み	内部評価 外部評価	
6 ※子育てに関する講演会	子育てひろばを活用して、子育てに関する講演や講演会を開催している。	親子の愛着形成や親子と一緒に楽しめる講座、子ども成長、発達を促す講座等が必要である。	子どもの発達支援を目的とする「親子ふあいりずむ」を実施する。	○子育て講座・講演会の開催 H26年度82回、H27年度96回(見込み) ○親子の愛着形成を目的とした子育て講演会の開催 ・子どもの発達支援を目的とした「親子ふあいりずむ」の実施(H27.9～1/月) ○ミニミニ運動会の開催 ○県の子育て講座を活用 ○助産師によるふあいりずむや小児科医師等による講演会等外部講師による講演会の実施 ○産科衛生士による産科講座(産産推進計画)、栄養士やヘルスマネジメントによる食育講座(産産推進計画)の開催	4	4
7 ※子育てサークル支援	地域で活動している子育て支援団体とネットワークを構築し、地域全体で子育て支援の基盤づくりをすることを目指し、子育てサークル交流会等を開催している。	地域で活動している団体との連携の充実に支援が必要である。	香美市立図書館との連携を強化する。	○子育てサークル交流会を年2回開催。秋には県の事業を活用して子育て講演会を開催し研修した。 ○子育て支援団体のふあいりずむが開催している「ふあいりずむ」への参加(月1回) ○ふあいりずむの開催の配布、ハッピーチャイルドレンのちらし掲示等 ○子育て支援に関する研修会等の案内 ○香美市立図書館と連携し、地域で活動している「山田おはなしの会」の缶詰の協力のもと絵本の読み聞かせを毎月実施(H27年度～)	4	4
8 ※一時保育	保育園等を利用していない香美市内に住所を有する就学前の児童を対象に、昼間において保育所等で一時的に預かっている。	子育てセンターなかよしでは年間を通して特に混雑状態であり利用できないケースがある。また、緊急預かり等配慮が必要な方は体制を整え可能な限り受け入れられている。	一時預かりでお断りしなければならぬケースの統計をとり今後の体制を検討する。また、緊急預かり等配慮が必要なケースを柔軟に受け入れる。	○子育てセンターなかよし・ひらふで実施(月～金)利用延べ人数 H27年度612人(H27.12末) H26年度677人 ○緊急預かりの受け入れは体制を整備し、可能な限り受け入れに努めた 緊急預かり利用延べ人数 H27年度26人(H27.12末) H26年度40人 ○障害児(例)やアレルギ一原数の受け入れをし、また障害児に加配を配直し、受け入れ態勢を整備した。	3	4
9 ※マタニティママのつどい	妊娠・出産・子育てに関する知識や技術を学び、参加者同士の交流によって安心して子育てできることを目的に、妊婦とその家族を対象にマタニティママの集い(両親学級)を開催している。	・年2コースだと適切な時期に教室が空欄できない対象者がいる。 ・妊娠期からの子育て支援が必要である。	年2コースから年3コースに増やし、適切な時期に受講できるようにする。	○健康介種支援講座と併動で、子育てセンターなかよしにて年2コース(1コース3回)から年3コースに増やし実施した。 参加者延べ人数 H26年度43人、H27年度59人(見込み) ○対象となる妊婦には健康介種支援講座から個人通知し、更に第1子には全員電話している。 ○保健師、助産師、栄養士等専門スタッフによる講話と実技を実施している。	4	4
10 ※子育てサポート体験	将来となる高校生を対象に、福祉・看護・保育・子育てに関心を持ってもらうことを目的に、子育てサポート体験を実施している。	高校生の参加者が少ないため、参加しやすい体制を検討していく必要がある。	子育てサポート体験の参加者が前年度並である。	○山田高校と連携し、山田高校3年生で福祉・看護・保育・子育てに関心がある方を対象に、夏休みを利用して「子育てサポート体験」を実施している。 参加人数(H26年度19人、H27年度9人) ○中学校や健康介種支援講座と連携し、志願期保護に関する検討会を年3回実施し、H28年度実施予定の事業計画を検討した。	2	3

＜視点＞
市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます
(3) 市民協働で地域の教育力を高める取組の推進

取組・事業名		事業の概要		平成27年度 具体的な取組		評価	
		地域の人々が学校教育に係る活動の充実	事業の概要	到達目標	内部評価	外部評価	
1	学校支援地域本部事業			香美市内全小中学校で学校支援地域本部事業を行っているが、さらに活動に関わる人、回数を増やし、活動内容を充実させていく必要がある。	学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を充実させるために各学校のコーディネーターが中心となってボランティアの調整等を行い学校支援を行う。授業の補助、学習支援、環境整備、学校行事支援、登下校の見守り等の活動を行った。平成27年12月末時点でのボランティア活動のべ人数2,379人	4	4
2	放課後子ども教室推進事業		放課後子ども教室推進事業	○子ども教室の実施を希望する学校があれば、全ての学校で実施を検討する。	○本年度より新たに舟入小学校・片地小学校で実施することとなり、1週間あたり2～3日程度開催できるようになった。	4	4
3	コミュニティースクール事業		コミュニティースクール設置に向けて研究を進める	・片地小学校での研究推進 ・大橋小・中学校での研究推進	・片地小学校でのコミュニティースクール設置に向けての研究を進める ・大橋小・中学校での研究を進める	4	4
4	放課後児童クラブの充実		児童クラブ充実事業 ・児童クラブ指導員の研修の実施 ・児童クラブの環境整備	○高知県が開催する研修に参加している ○施設整備の推進を検討する。	○放課後児童支援員認定資格研修に殆どの児童クラブより人数制限内で参加することが出来た。 ○小学校から離れた場所であり、専用施設ではなかった大宮小学校児童クラブの新築工事が完了する。専用施設として小学校に隣接した、利便性が高く、機能的な施設整備となった。	4	3
5	学校評価の推進		学校評価の推進 ・学校関係者評価の推進と拡充 ・香美市教育振興基本計画と連動した評価のあり方研究、および評価	○評価を、学校改善に活かすことができている	○計画的な学校関係者評価の実施を行う。	4	4

<視点>

※本表を、新たな企画を推進する事項を強調します
(1) 次世代を担った教員の環境整備と充実

取組・事業名		事業の概要		平成27年度 具体的な取り組み		内部評価	外部評価
1	ICT機器整備	ICTの整備とそれを生かした授業の実施 ・ICT活用の授業の推進 ・ICT活用の授業の研究推進 ・ICT活用の交流活動の推進 ・ICT活用の情報系履の推進 ICT整備	到達目標 ・小・中学校(山田小、楠目小、香北中)での情報機器を使った授業 ・市指定校(山田小、香北中)での情報機器を使った授業公開	現状 ・小・中学校への電子黒板の設置、順次タブレットの導入(学習指導要領)・タブレットを使用しているが、効果的な使用に至っていない	到達目標 ・市指定校(山田小、楠目小、香北中)での情報機器を使った授業公開 ・教員及び保護生徒に対する研修の充実 ・HPの更新 ・情報機器の活用	現状 ・小・中学校では総合的な学習の時間を活用した学習がすすんでいる	到達目標 ・各発表会や作品展への出席
2	情報モラル教育の推進	教員に関する情報モラル教育の実施 児童生徒に対する情報モラル教育の実施	・情報機器の普及に伴い児童生徒のモラルの低下が課題になっている	・教員に対する研修は、事務局からの資料の提供のみにとどまり、研修を行えなかった ・作成センターの指導員への研修にPCを使ったSNSの研修を取り入れた ・児童生徒には、各校が警察などを招聘して研修を行っている。本年度は、工科大学生サイカットのメンバーを招いて、小学5、6年生に対しての研修を行った	・HPの更新状況を確認し、必要に応じて連絡 ・情報機器類の効果的な使用の支援	4	4
3	情報リテラシー教育の推進	教員へのICTリテラシー研修の推進	・公務をPCで効率よく行うことができない教員が少なくない			3	3
4	環境教育、エネルギー教育の推進 環境教育、エネルギー教育の推進 香北市の教育計画の作成と実施 ・高知工科大学、県立やまだ高等学校と連携して推進 ・子どもエコクラブ活動、みどりの小遣環境日記の活動促進	環境教育、エネルギー教育の推進 環境教育、エネルギー教育の推進 香北市の教育計画の作成と実施 ・高知工科大学、県立やまだ高等学校と連携して推進 ・子どもエコクラブ活動、みどりの小遣環境日記の活動促進	・小・中学校では総合的な学習の時間を活用した学習がすすんでいる	・キャリア発表会での発表公開 ・子どもecoつ活動交流会への参加(楠目小、大新中) ・エココンクリートコンテストの入賞 ・みどりの小遣環境日記への小学生の出席(金賞受賞)		4	4
5	学校図書館システム化の推進	学校図書館システムの推進	・委託業者による導入作業中。	平成28年3月中旬までに完了		2	4
6	外国語(英語)教育の推進	外国語教育の推進 ・外国語指導助手の配置 ・外国語指導支援員の配置 ・教員に対する研修の実施 ・外国語指導教師の確保 ・外国人とのふれあいや体験活動支援	・次年度本校実施に向けた準備を進めている ・小学校外国語活動の準備を進めている	・全員の開催、学校への普及	・外国語指導助手等の手配、予算や普及 ・次年度からの体制の学校への周知 ・コロナ英語部会の立ち上げ	5	4

<視点>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

(2) 高知工科大学との連携

取組・事業名	事業の概要
高知工科大学について知る学習の推進 オーブンキャンパス事業	高知工科大学オープンキャンパス事業 ・小学5年生対象実施 ・中学2年生対象実施
高知工科大学留学生との交流 インターナショナルデー開催	インターナショナルデー実施 ・小学生対象実施 ・中学生対象実施
高知工科大学学生企画による小中学校学習支援活動	高知工科大学 学生企画による小中学校学習支援活動
高知工科大学の施設や(知)を活用した連携活動の推進 教職員情報リテラシー研修の推進 例:情報教育担当教員との連携	高知工科大学学生による教職員情報リテラシーに関する支援

平成27年度		内部的な取り組み		内部評価(外部評価)
現状	到達目標			
高知工科大学の学生が一部の学校に訪問している。一部の学校は、高知工科大学と連携している。	全ての小学校で工科大学に行つての学習ができる。	工科大学に行つてみよう(小学生版)を実施。		4
留学生との交流は一部の学校で実施している。	インターナショナルデーを実施し、参加を希望する児童生徒が参加できる。	インターナショナルデー(留学生や外国の方との交流)の実施		4
学習、活動支援を受けている学校が一部である。	工科大学による学習、活動支援をH26年度より増加させる。	放課後学習支援事業への工科大学の参加 香美市理科クラブの実施 コーポ企画への工科大学の参加		4
公務をPCで効率よく行うことができない教員が多い	工科大学から講師を招いた研修を行いスキルの上昇を図る	<ul style="list-style-type: none"> 育成センターの補導委員への研修にPCを使ったSNSの研修を取り入れた 児童生徒には、各校が警察などを招聘して研修を行っている。本年度は、工科大学生サイカットのメンバーを招いて、小学5、6年生に対しての研修を行った 大学から講師を招き、教員研修を行えなかった 		3

＜視点＞

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します
 (3) 生涯を通じた豊かな学びと文化・芸術・スポーツ活動の充実

		平成27年度		真実的な取り組み		内部評価	外部評価
取組・事業名	事業の概要	現状	到達目標	到達目標			
1	芸術・文化活動の拠点となる市内社会教育施設の活用促進	中央公民館は生涯学習の拠点として、市民の創造的な学習活動の推進を図ると共に、自主的、自主的なボランティア活動を支援することを目的として、1. 主催事業による研修・学習の場を提供、2. 貸館事業による市民の学習活動の推進、3. 地区公民館との連携、について取り組んでいる	各種大会において、参加チームや選手の固定化がみられる。 ・スポーツに取り組みきっかけがない。	各種サークルの活動場所の提供を行い、文化芸術活動の支援と活性化を図る。	・文化協会加入サークルを中心とした利用に加え、人材バンクを利用した新たな活動に対して、部室の使用料を一部軽減するなど、新規の文化活動の支援を行う事で、施設活用の促進につなげた。 ・芸術サークルの活動の場としてアトリエを提供した。また、文化展や小・中・高校生の作品展示の他、子育て支援サークルの利用においては、使用料の免除等で活用促進をはかり、幅広い層が芸術に触れる場を提供しやすくなった。 ・無形民俗文化財の公開活用は、定例日以外にも依頼を受けた保存会が公開するなど、積極的に行われている。 ・助成金を活用することができたので、かねてから新顔希望していた甲費を購入することができ、古式の復活と保存をすることができた。	3	4
2	民俗芸能や伝統行事を後世に残す取組の推進	無形民俗文化財を継承する団体への補助 ・芸術祭(文化展)オープニングセレモニーを依頼するなど、公開を促進	・各種大会において、参加チームや選手の固定化がみられる。 ・スポーツに取り組みきっかけがない。	無形民俗文化財を保存し、公開活用を促進する。補助促進のための補助と助言を行う	・無形民俗文化財の公開活用は、定例日以外にも依頼を受けた保存会が公開するなど、積極的に行われている。 ・助成金を活用することができたので、かねてから新顔希望していた甲費を購入することができ、古式の復活と保存をすることができた。	3	3
3	生涯スポーツの推進	各種大会やスポーツイベントを開催する事により、スポーツに興味を持ってもらえる場を提供する。	・各種大会において、参加チームや選手の固定化がみられる。 ・スポーツに取り組みきっかけがない。	スポーツ関係団体と連携して大会やイベントを開催することにより、幅広い年齢層へのスポーツ活動の普及を目指す。	・香美市体育大会や軽スポーツ大会等の各種大会を開催する。また、スポーツに取り組みきっかけとなるよう、ファミリースポーツフェスティバルや体カテストを行った。実施には関係団体と連携した運営ができた。 ・宝町グラウンド改修工事の施工等、スポーツ施設の環境整備を計画的に進めている。	3	3
4	公民館活動の活性化	成人教育においては市民大字、市民セミナー、パソコン教室を実施し、青少年教育においては子ども教室の実施している。	・市民大学において、市民に時期や回数などが定着し、講演内容・受講券発行についても検討している必要がある。また、市民セミナーやパソコン教室においても内容に変化を持たせながら実施していく必要がある。	・市民大学(全4講座:1100人以上)、市民セミナー(10講座:500人以上)、パソコン教室(2講座各8回:300人以上)ことも教室(文化・スポーツ教室など延1200人以上)	・成人教育においては市民大字(講演)を4講座、市民セミナー(講座・教室)を10講座、パソコン教室を2講座(各8回)を実施した。また、人材バンク(まちの先生)の登録者数も20名(1月現在)と増加し、登録者を活用した教室の実施やサークルが新たに発足してきた。 ・青少年教育については、特に人気のある英語教室を増やした。 ・地区公民館については、各公民館が特色のある事業を実施してきた。	3	3
6	図書館活動の充実	①図書資料の収集 ②イベントの開催 ③学校や読書ボランティアとの連携	・古い資料が多く、資料の配架スペースが少ない。 ・事業内容のマンネリ化。	図書資料の整理と館内環境の整備を行い、利用しやすい図書館づくりを行う。また、事業内容の見直しを行う。	・資料整理と図書館環境の整備について職員研修を行った。講師の方のアドバイスをいただきながら、古い図書資料の整理(除籍処理・書庫への移動)や、館内の資料配架・展示コーナー場所等の移動を行った。 ・高知工科大学の吹奏楽サークルによるミニコンサートと音楽を交えた読み聞かせイベントを新たに開催した。毎年度開催している事業についても内容の見直しを行った結果、参加者に好評であった。	3	4